

事業コード	H22-農-継-6		区 分	国庫補助 県単独
事業名	基幹水利施設ストックマネジメント事業		部局課室名	農林水産部 農地整備課
事業種別	かんがい排水		班 名	水利整備・防災班 (tel) 018-860-1831
路線名等	秋田北部3		担当課長名	菅原 徳蔵
箇所名	大潟村		担当者名	田口 有志
総合計画との関連	政策コード	02	政策名	融合と成長の新農林水産ビジネス創出
	施策コード	02	施策名	新農林水産ビジネスの展開を支える基盤づくり
	指標コード	02	施策目標(指標)名	水田フル活用の推進と生産基盤の整備

## 1. 事業の概要

事業期間	H17 ~ H24 ( 8 年 )		総事業費	11.2億円	国庫補助率	50%
事業規模	用水路工 L=7.6km 取水口 N=5箇所					
事業の立案に至る背景	本地区は、昭和32年～51年に国営干拓事業及び新農村建設事業で干拓造成された総耕地面積11,741haのうち、受益面積3,554haの耕地である。幹線用水路(コルゲートフリーウム、コルゲート管)は、経年変化に伴い内面の腐食や劣化が著しく、漏水により用水供給に支障を来している。また、取水口も老朽化により、いつ破損してもおかしくない状態であることなどから、補修に伴う維持管理費の増大が農業経営を圧迫している状況であった。このため、本事業により、幹線用水路及び取水口を補強・改修することで、用水の安定供給と維持管理費の低減を実現し、農業経営の安定を図るものである。					
事業目的	基幹水利施設の補修等による用水の安定供給と維持管理費の軽減 (用水受益面積 水田A=3,554ha)					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		976,000	1,114,000	138,000	
	経費内訳	工事費	919,000	1,048,465	129,465	用水路改修延長L=0.8kmの増
		用補費	0	0	0	鋼材の高騰による増
		その他	57,000	65,535	8,535	
	財源内訳	国庫補助	488,000	557,000	69,000	
		県債	292,800	334,200	41,400	
その他		195,200	222,800	27,600		
一般財源		0	0	0		
事業内容		用水路改修 L=6.8km 取水口5箇所	用水路改修 L=7.6km 同左	用水路改修 L=0.8kmの増		
事業の進捗状況	本地区は、平成17年度に採択、着工している。 平成21年度までに用水路総延長の96%(7.3km)及び取水口5箇所のうち4箇所が完成している。					
事業推進上の課題	当初計画では予定工期を6年(平成22年度完了)として進めていた。 鋼材価格の高騰などにより事業費が割り増しとなり、平成22年度に事業費増に伴う計画変更を予定している。					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」(水田フル活用の推進と生産基盤の整備)					
情勢の変化及び長期継続の理由	計画されている用水路下流について、老朽化の激しい箇所が見られ、用水路の安定供給に支障が出る可能性があったため、改修延長(L=0.8km)を増とした。 用水路の材料である鋼材についても、平成18～20年度の間、高騰し事業費が増となった。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	更新が必要な農業用排水施設の整備面積				
	指標式	農業用排水施設の整備面積の実績÷更新が必要な農業用排水施設の整備面積				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	3,554 ha		データ等の出典	H21年度まで実績	
	実績値 b	3,423 ha				
達成率 b/a	96.3 %		把握の時期	平成22年 6 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	指摘事項への対応

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	地区の用水は東部、西部承水路及び調整池からのサイホン取水により本幹線用水路を通水し水利用している状況であるが、施設の経年変化に伴う機能低下により効率的な営農に支障をきたしている。本事業で幹線用水路L=7.6km及び取水口N=5箇所を補修することにより、安定した用水の供給がなされ、生産性の向上及び維持管理費の節減が図られることから、米粉等の多用途米の作付拡大にも繋がる。	5 点
緊 急 性	幹線用水路については、経年変化により腐食、欠口し、漏水が生じているため用水不足が生じている。また、取水口についても老朽化によりいつ破損してもおかしくない状況から、取水不能となった場合は甚大な農業被害が発生する恐れがある。	10 点
有 効 性	節水かんがいによる水質浄化 田植え落水時の濁水流出防止対策 維持管理費の軽減による農業経営の安定に寄与 本事業は、「ふるさと秋田元気創造プラン」の融合と成長の新農林水産ビジネス創出戦略を支える取組として位置づけられている。	40 点
効 率 性	事業の費用便益比は1.06である。 ・総費用の現在価値 1,170百万円 ・総便益の現在価値 1,240百万円 平成22年度の計画変更に伴い、効果アップに努める。	8 点
熟 度	土地改良区総代会において、事業推進の議決が得られたうえで事業申請されているほか、各年度の工事計画や箇所についても十分協議しながら進めており、事業への理解を得ている。 環境配慮対策として、濁水防止対策を講じている。	30 点
判 定	ランク ( ) 事業判定ランク となっており、早期の事業完了に向けて継続すべきと考える。	93 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、完了に向けて継続することが妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

安定的な用水供給等を図るため、必要な整備を継続していくとともに、工事の実施にあたっては環境配慮対策と一層のコスト縮減に努める。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 かんがい排水事業

事業コード (H22-農-継-6 )  
箇所名 (大瀧村 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性				
	社会経済情勢変化による需要変化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 0	5	
	計		5	5	
	緊急性	事業未実施の影響			
緊急性	現況施設の状況	漏水、崩落があり、施設の機能低下が著しい 漏水、崩落があり、施設の機能がやや低下している 漏水、崩落があるが、施設の機能は維持されている	5 3 1	5	
	他事業との関連				
	周辺関連事業地区の有無	関連する他事業との調整で緊急性が高い 他事業はないが、単独で十分な効果がある	5 3	5	
	計		10	10	
有効性	整備の効果				
	農業経営の安定	維持管理費の節減が見込める 維持管理費の節減が多少期待できる 現状と変わらない	10 5 0	10	
	農業生産性の向上	農業生産性の向上効果が見込める 農業生産性の向上効果が多少期待できる 現状と変わらない	10 5 0	10	
	施設の維持体制	地域が一体となった維持管理体制の構築が見込める 維持管理体制の充実が見込める 現状と変わらない	10 5 0	10	
	上位計画への貢献度				
	ふるさと秋田元気創造プランでの位置づけ	戦略を支える取組として貢献度が高い 戦略を支える取組に間接的に貢献する 戦略を支える取組への貢献度は低い事業である	10 5 1	10	
	計		40	40	
効率性	事業の投資効果				
	費用対効果	B / C = 1.0 以上 B / C = 1.0 未満	5 0	5	
	事業実施コストの縮減				
	対策内容	効果が発現している 実施している 検討中である	5 3 1	3	
計		10	8		
熟度	事業の推進				
	事業の同意状況	全員の同意が得られている 若干の未同意者がいるが事業実施に影響はない 未同意者がいるため事業実施に影響がある	5 3 0	5	
	前年度までの進捗比	計画より進捗している 概ね計画どおり (90%以上) 計画より遅れている (90%未満)	10 5 1	5	
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない 課題は解決の見込みがなく、事業の停滞が予想される	5 3 0	5	
	他官庁との協議調整	協議・調整済みで事業推進に影響はない 協議・調整中であるが事業推進に影響はない 協議・調整中で事業推進に影響する	5 3 0	5	
	環境との調和への配慮状況				
	環境保全への配慮	十分に配慮している 配慮している 配慮が不十分である	10 5 0	10	
計		35	30		
合計			100	93	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		